



広 報

なかつえ

50年 7 月号

第139号

発行所
編集発行人
大分県・日田
中津江村

齊藤隆一



早朝ソフトボール

おはよう

朝の風景は

やさしい言葉が生まれる

吐く息に 汗を呼び

吸う息に 土をみる

おはよう おはよう

静まりかえった夏の空に

どんな亀裂が

おはよう

朝の風景は

暗さを知らない

おはよう

人口の動態

昭和50年 6 月30日現在

人 口 2,444人

男 1,157人

女 1,287人

世帯数 607戸

第2期山村地域農林業 特別対策事業計画まとまる

〈農事報送・農産物加工施設など〉

中津江村は昭和四十九年度山村振興事業の推進にあたっては農林業の振興計画のほか道路、教育、地域環境整備事業等、総合的な事業計画を樹立し、事業の実施にあたっては更に年次計画をたて、これに基づいて逐次実施しています。

本事業の中で特に目玉とされる事業に特別対策事業計画があります。この事業は指定地域の振興対策の中で特に重要な事業種目を選び、一定の事業量と事業予算の枠内において計画すれば国及び県の補助等を受けることができると見込んでいます。本事業の計画策定にあたっては十二分に検討した結果次の事業種目を選び実施計画を策定し申請中のあるところのほど農林省の査定も終り申請のとおり承認されることになりました。特対事業は三種目であり、その一つは農事放送施設事業です。この施設は無線放送によって全村（全部落）に放送される施設で、一般農事放送のほか、行政全般にわたる周知事項が放送される施設です。この事業は本年度（五十年）度）事業として実施されます。

次にその二つ目の事業として生活改善センターの建設があります。この施設は鯛生地区と丸蔵地区に建設される計画ですが、この施設は集会室をはじめ、調理室、研修室等が完備されているため農事研究、婦人学級、老人集会、青年団集會等、幅広い利用効果が期待されます。

その三つ目の事業は農産物加工施設です。農協が事業主体となる施設であり、本村の特産物の総合的な加工場です。特にこんにやく、たけのこの加工を主体とし、このほか梅、ワサビ、山菜等のビニールパック詰、真空詰等の製品が生産されます。この加工施設の設置によつて特産物の価格の安定と販売ルートの拡大が期待されます。以上あげた三つの特対事業はそれぞれ年次計画に基づいて昭和五十三年度までに完成されることになっていきます。

第一回製茶品評会開催さる

一等に

森脇 茂さん (伸茶)
武原 保さん (釜茶)

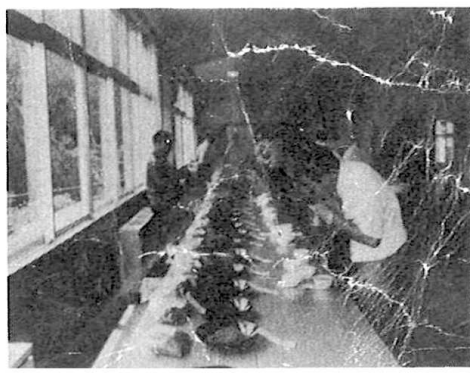
中津江村茶業協会主催による第一回製茶品評会が六月二十七日、中津江村役場において開催されました。

出品点数は伸茶十八点、釜茶十七点と第一回にしては予想以上の出品点数で、審査は大分県農業技術センター広瀬技師を審査長に日田農業改良普及所の佐藤技師によつて慎重に且厳正に審査をおこないました。

今年の一番茶は摘採期前後に雨が多く、生葉が肉厚なく、全般的には良質ではなかったにもかかわらず、出品茶は伸茶、釜茶ともに比較して優秀なものが出品されました。特に上位入賞したものには市場価格kg当

り、三千五百円〜四千五百円に値するものがありました。しかし、全般的には摘採期の遅れたものが多く、良質茶の製造には絶対条件である若芽摘みを奨励します。少なくともいつもより二、三日早く摘むことが絶対必要です。このほか生葉のむれたもの、乾燥不十分なものの、施肥量の不足したもの、等があげられます。また、機械製、手製ともに製造技術の向上が望まれ、特に機械製についてはいつそのの研究と熟練を期待します。入賞者は次のとおりです。

▽伸茶―(一等) 森脇茂、長谷部忠夫。(二等) 森脇茂、永瀬哲也、山田サダ子、牛島寿太郎、松野中。(三等) 長谷部忠夫、中津江農協、梶原又吉、長谷部光夫、▽釜茶―(一等) 武原保、(二等) 松野中、合谷元寿(三等) 末松義明、合谷弘光、川良鶴美、川野仙次。なお上位一等賞には大分県日田事務所長賞、日田農業改良普及所長賞、中津江農協長からの副賞が授与されました。



文化財紹介(8)

「車田半次郎の墓」

鯛生金山の歴史は時代の
変遷と共に大きな盛衰の足
跡を残している。このなか
で明治三十一年に開発に着
手以来、昭和四十五年に閉
山になるまで金山の繁栄の
陰に犠牲になった多くの人
達がある。その慰霊碑につ
いては前月号で紹介したが、
鯛生金山が開発後、最初の

犠牲者の碑が現在まで立派
に残されている。

この最初の犠牲者は車田
半次郎という鹿児島県出身
の人で、その慰霊碑が鯛生
中学校の上方の墓地に建立
されており、明治四十一年
十月三十一日死亡、山方一
同建之と刻まれている。車
田半次郎は下切部落におら

れる清原正行氏の義父にな
る人で、金山に勤めながら
副業として養鶏業を営み、
当時としては先見的な感覚
を持った事業家でもあった
ということである。



昭和五十年 度

法令講習会があります

館

本年度の交通法令講習会
が次のとおり開催されます。

日に日に変化する交通事
情に即応するには正しい交
通ルールの知識が必要です。

運転免許所持者は全員、受
講してください。

※日時―九月七日(日)

午前九時から受付

※場所―中津江中学校体育

が次のとおり開催されます。

員証、分会費、車両会費

○分会費 一人百円

○車両会費 一台につき

普通車以上は五百円、軽自

動車、自動二輪及び五十一

以上原付は三百円、五十以

下原付は百円です。

勝臣③石川賢治④川津益雄

⑤鷹野喜千代

▽粒ぞろい賞―石川賢治

▽魚族愛護賞―中元謙三

税 贈与税のあらまし

贈与税は個人から財産を
もらったときにかかる税金
ですが、財産の合計額が年
間六十万円以下であれば贈

与税はかかりません。

また、二十年以上結婚し
ている夫婦の間で、夫から
妻に、あるいは妻から夫に
贈与された住宅などの居住
用不動産などについては、
一千六十万円までは贈与税
がかかりません。

贈与税の申告と納税は、
財産をもらった年の翌年の
二月一日から三月十五日ま
でとなっています。

第 4 回 津江川開き釣大会

第四回津江川開き釣大会
が六月二十二日、中津江村
観光協会主催、西日本新聞
社後援でおこなわれました。
当日は天気にも恵まれ、絶
好の釣り日和でしたが、前
日の大雨のため川が増水し
ていたため、例年のように

福岡、大分など遠来からの
参加が少なく、日田市、小
国町のほかは、ほとんどが
村内からの参加者でした。
午後一時から審査がはじ
まり午後二時には表彰式が
おこなわれ、量目賞のほか
それぞれの成績によって大
会長賞並びに西日本新聞社
寄贈のトロフィのほか、釣
具店等の寄贈による副賞が
賞状に賞品を添えて与えら
れました。
なお入賞者は次のとおり
です。



盛大に郡民体育大会

各種目に善戦

去る六月二十九日にソフトボール(栃原グラウンド)野球(市営球場)卓球(中津江中)七月六日にバレーボール(中津江中)バドミントン(上津江村公民館)剣道(前津江中)、七月二十日に陸上(大山中)の郡民体育大会がそれぞれ開催されました。

当村からも各種目に参加し、日ごろの練習成果を出して熱戦をくりひろげました。

どの種目をとっても、もう一步というのが多くみられたことは、来年度に対する精進の課題が出てたように思われます。郡内での各種目の格差はほとんど見られ



ず、レベルがあがっていると考えられます。

※郡体の結果

- ソフトボール 三位
- 野球 三位
- 卓球 二位
- バレーボール(男子) 二位
- 同 (女子) 四位
- バドミントン 一位
- 剣道 三位
- 陸上 三位

以上のような結果ですがどの種目も、もう少しというところでした。

総勢百二十余名の選手が出場しましたが、来年はよりよい結果が出るよう期待したいと思います。

ちよつと一杯のつもり—事故が

お盆やレジャーの時期となり、飲酒の機会が多くなります。春秋の全国交通安全運動、その他の機会あるごとに、飲酒運転の追放が叫ばれてきましたが、まだまだ跡を絶たない状態です。ちよつと一杯という軽い気

持ちで飲んだ酒が死亡事故などのもとになっているという事実を知ることが大切ですが、ドライバー自身のほか、職場や家庭でも運転者に酒をすすめないよう、みんなで注意しなければなりません。

花火は楽しく安全に

夏になると各家庭の庭先に美しくさわやかな花火の競演がみられます。しかしその花火も使用方法を誤ると火災や事故のもとになります。最近の花火は、空中を飛んだり地上を走り回ったりするものが多くなっています。花火の種類に応じて、それぞれ性状が異なりますので、「注意書」

家守って正しく遊びましょう。

家の近くや風が強く吹いている時、異常乾燥注意報など発令している時は絶対にやめましょう。

また大人が付き添うか、目のとどくところで遊ぶようにし、特に危険性のある花火で遊ぶときには必ず立ち会、うようにしてください。

台風季節です

台風の情報はテレビ、ラジオなどを通じて報道されますが、たえず新しい台風情報に注意してください。また、その内容で気を付けることは、(1)現在の位置(2)強さと大きさ、(3)進行方向、速さ、(4)今後の予想

などに気をつけ被害の少ないよう心掛けてください。

台風の被害を少なくするには、防災関係機関の活動だけでは十分でなく、みなさんのふだんの準備や注意が大切です。

雑記

※お中元、立派な品物をポンとデパートなどから送りつけて、あとは知らん顔では精神がぬけています。虚礼廃止ということがいわれてから、ずいぶんたちますが、このごろはますます盛んになってきました。ほんの気持ちだけといいながらドカッと豪華な品物を贈られたとき、なにかしてさしあげなければならぬ、という義務感が先に立ちます。もしこれがほんとうに虚礼でなく、実礼であるなら、もっと心のこもったおくりかたがありそうに思えます。いずれにしても、心の重い季節と感じておられる方が多いようです。

